

～「読みたい・識りたい」そういう図書館がある～

<おすすめ図書紹介>

テーマ:怪談

暑い夏の夜にはちょっぴり不思議で、スーッと涼しくなるようなお話をどうぞ・・・。



『山の靈異記 幻惑の尾根』

安曇 潤平／著
KADOKAWA



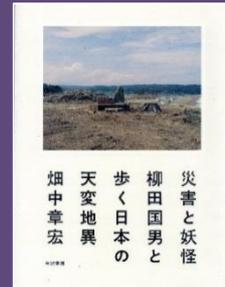
山にまつわる怪談が20話収められています。山は四季折々の美しさが魅力のひとつですが、時に神秘的で、怪異な世界が存在することを感じさせられる一冊です。登山を愛する著者だからこそ描くことができる臨場感あふれる山の世界観を味わうことができます。

(C. S)

『災害と妖怪』

柳田国男と歩く日本の天変地異』

畑中 章宏／著
亜紀書房



大地震、飢饉、鉄砲水、干ばつなどの繰り返される災害。忘れてはいけない記憶を河童、座敷わらし、天狗、ダイダラ坊などの妖怪に仮託し、人々に受け継いできたとする災害伝承。柳田国男の「遠野物語」などを紐解きながら各地の妖怪の足音を明らかにしてくれます。

(N. Y)

『画図百鬼夜行』

鳥山 石燕／[画]
稲田 篤信／編
田中 直日／編
国書刊行会



妖怪画の集大成と言われる『百鬼夜行』シリーズ全4部を収録。

天狗というと長い鼻に赤ら顔の山伏姿を思い浮かべる方も多いたですが、本書ではするどいくちばしと爪を持った怪鳥として描かれています。怪談を彩ってきた妖怪たちの、意外な姿に出会えるかもしれません。

(M. S)

『営繕かるかや怪異譚』

小野 不由美／著
KADOKAWA



雨の日に現れる喪服姿の女性や、家をうろつくお爺さん…。数々の怪異に向き合うのが、建物の修繕や改築などを行う営繕屋、というのが面白いところです。ただ怖いだけでなく、温かさや切なさも感じられるお話なので、怖いのは苦手という人にもおすすめします。

(M. K)



図書館での本の一生

毎年、国内で年間約8万点の本が出版されています。1日に換算するとおよそ200冊です。出版される全ての本を長岡市立図書館でそろえることは難しいので、本を選定する基準を設け、購入しています。昨年、中央図書館で購入した冊数は約1万5千冊です。どのような流れで図書館の本が皆さまのお手元に届くのか？そして、役割を終えるのか？図書館での本の一生を紹介します。

資料の選択

・出版情報を見ながら収集方針・収集基準に基づき、本を選びます。(月曜日の選書会議)

発注

・本を注文します。

装備

・バーコード・ラベル・フィルムをかけます。

受入・登録

・登録するデータを作ります。

配架

・棚に本を並べます。

貸出・予約

・貸出や予約で多くの人から利用されます。

除籍・保存

・役割を終えた本を選定します。本の状態によって、リサイクルに回したり、汚れや傷みが激しいものは廃棄します。人気のある本は買い替えたりします。

リサイクル

・図書館以外で再利用できそうな本を学校や福祉施設などの団体や市民の方に提供します。



木曜日には“見計い”といって実際に本を手にとって内容を確認します。



カバーをすることで、本の汚損・破損を防ぐことができます。



団体リサイクル

学校や福祉施設等で図書館の本が二次活用されることを目的にリサイクル資料の提供を行います。

～本の一生のまとめ～

図書館の本には、いわゆる“賞味期限”があります。その本が図書館の中での役割を終えた時が賞味期限切れとなります。たとえば、新しいデータが必要とされる観光ガイドは、受入後数年経過すると現状にそぐわなくなり除籍します。除籍した中で皆さまにリサイクル図書としてお譲りする本もあります。ただし、年鑑や郷土資料・貴重資料にあたる本は除籍をせずに保存します。

図書館開館 100 周年にむけて 館長通信

はじめまして。この春4月から中央図書館長を務めております山田です。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、長岡市立図書館は、来年、平成30年で開館100年の節目を迎えます。大正7年、野本恭八郎（互尊翁）氏の寄付により長岡市立の図書館として互尊文庫が開館しました。当時、東坂之上町（現在の長岡グランドホテル付近）に建設され、蔵書数3万冊を超えるモダンな洋館は全国でも5指に入る図書館と評されたそうです。

その後、互尊文庫は昭和20年8月1日の長岡空襲により焼失しましたが、昭和23年、繊維商内藤伝吉氏の寄付などにより現在の明治公園内に建設、さらに昭和42年に再建され今に至っています。

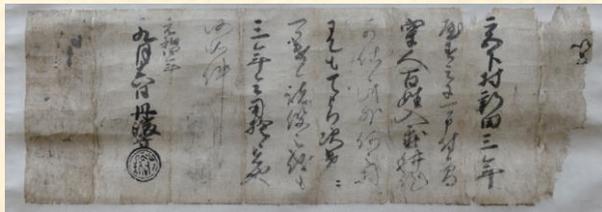
昭和62年に中央図書館が学校町に開館してからは、互尊文庫は地域館となり親しまれています。

今年度、中央図書館では100周年記念に向けて機運を醸成するために、いくつかのイベントを実施します。

まず、10月には文書資料室で取り組んでいる「長岡市災害復興文庫」関連のシンポジウムを行います。「あつめる・整理する・つたえる」をテーマに、震災復興と図書館のアーカイブ機能を発信するものです。また、11月末には図書館が収集した特色資料を公開する展覧会「堀口大學と長岡」展、12月には絵本と音楽を楽しむ「クリスマススペシャルコンサート」など、図書館で行っているさまざまな活動を多くの皆さんにご紹介していきます。

長い歴史の中で図書館が果たしてきた役割を見つめ直し、今後さらに多くの方々から親しまれ、愛される図書館であり続けるために、職員一同、真摯に努めてまいります。
(山田 あゆみ)

中央図書館所蔵資料紹介 No.153 堀直奇書状



なおよし
堀直奇（1577~1639）は、織田信長の陪臣・堀直政の子で、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた武将です。関ヶ原の戦いに際して起きた越後一揆を平定し、慶長7年（1602）蔵王堂城主の後見役に就きました。

度々の水害を避けるため、現在の長岡駅周辺に城をつくり始めますが、長野の飯山へ転封（国替え）となります。

その後、大坂の陣で功名をあげた直奇は、元和2年（1616）、長岡の領主となり再び築城工事を開始しました。そして、城下町の建設や荒れた田畑の再開発、さらには新潟の町づくりなどにも手腕を發揮

しますが、元和4年（1618）村上へまとも転封となります。

この古文書はその年の9月、村上における直奇の取組みを示すものです。内容は、宮下村の新田の税金を3年休ませる、牢人・百姓を入置き耕作させる、他の村でも諸役を3年用捨する、というものです。

長岡に続き、村上でも税金や労役を免除し新田開発を勧めていたことがわかります。直奇は移転する先々で、領地をより良く治めるために、政策を打ち出し、実行してきました。

直奇のあとを継いで牧野家が長岡に入り、来年には400年という歳月が刻まれます。

私たちが暮らすここ長岡の土台を築いた直奇。その功績を振り返る機会が今、ようやく巡って来たようです。

(小熊 よしみ)

*牢人 所領や俸禄（報酬）を失った武士

☆7月1日（土）から17日（月・祝）まで中央図書館エントランスで展示します。

7月～10月 イベント

映画会

★入場無料・申込不要 講堂 14:00～(開場13:30～)
7/30、8/15、9/13を除く

- 7/11 (火) 「アフリカの女王」1951年/イギリス・アメリカ (105分)
7/30 (日) ～夏休み映画会～
「こねこのぴっち」2008年/日本 (31分) 10:00～
「夏の庭-The Friends-」1994年/日本 (113分)
8/15 (火) ～平和な社会を考える映画会～
「紙屋悦子の青春」2006年/日本 (111分) 10:00～
「北朝鮮強制収容所に生まれて」2012年/ドイツ (107分)
8/26 (土) 劇団四季ミュージカル「壁抜け男」2012年/日本 (111分)
9/13 (水) 「若者のすべて」1960年/
イタリア・フランス (177分) 13:30～
9/24 (日) 「地下鉄(メトロ)に乗って」2006年/日本 (122分)
10/6 (金) 「NO」2012年/チリ・アメリカ・メキシコ (118分)

講座

文化講座「没後百年 ^{ほうてん} 宝田石油社長 山田又七

- ◆日時：7月16日(日) 14:00～15:30
◆内容：明治時代、東山油田を代表する宝田石油を創業し、長岡の商工業の発展に寄与した山田又七の生涯と功績を振り返ります。
◆講師：内山弘さん
(長岡歯車資料館館長・長岡郷土史研究会顧問)
◆会場：2階 講堂
◆定員：180人(先着)
◆申込：窓口・電話・HPから



▲若き日の山田又七

『北越石油業発達史』(明治35)より
安政2(1855)～大正6(1917)
三島郡荒巻村出身(現和島地域)

読み聞かせボランティア養成講座(3回連続講座)

第1回「絵本のたのしみをわかちあう

—子どもたちと本をつなぐ 子どもたちと本でつながる—

第2回「科学絵本を考える」

第3回「本を選ぶ」

- ◆日時：第1回 9月3日(日) 14:00～16:00
第2回 9月10日(日) 13:00～16:00
第3回 9月24日(日) 13:00～16:00
◆対象：全3回受講できる経験者。
※初回のみ、読み聞かせに関心のある未経験者も可。
◆講師：野上 千恵子さん(新潟子どもの本を読む会 代表)
◆会場：2階 講座室1
◆定員：第1回は、40人^{先着} / 第2・3回は、各20人^{先着}
◆申込：8/15(火)から、窓口または電話で
◆その他：一時保育あり。
長岡市子ども読書活動推進計画
～ずっとかたわらに本のある暮らしを～
※6カ月以上。定員5人。

平成30年は図書館開館100周年

栃尾美術館

とき ゆくえ 刻の行方 田中守展



「刻の行方」(2017年)



「長岡花火」(2015年)

- ◆会期：7月15日(土)～9月10日(日)
9:00～17:00 月曜休館
(※7/17、8/7は開館、7/18は休館)
◆内容：栃尾に生まれ、高校の頃より意欲的に描き始め、現在は所属する光風会や日展への出品を中心に、個展やグループ展の開催など県内外にて精力的に作品を発表。本展では、ライフワークとして20年以上取り組みを続ける「刻の風景」をはじめ、時間の経過=刻をテーマとし、多彩な表現で描いた数々のシリーズの油彩・水彩・デッサン等、約120点を一堂に展示・紹介します。
◆観覧料：一般400円
◆その他：7/29(土)14:00～15:00 ギャラリートーク、7/23(日)・8/20(日)の絵画講座は、要申込み。
◆問い合わせ：栃尾美術館 TEL.0258-53-6300



Twitter 栃尾美術館Twitter

詳しくは、ツイッターにて⇒



新刊◆長岡市史双書 No.56 の御案内◆

『近代長岡の雑誌(2)『温古の葉』と

大平与文次・温古談話会』

B5判・195ページ、頒布価格1,500円(税込)

お問い合わせ・頒布場所 文書資料室 TEL.0258-36-7832

平成29年7月1日

長岡市立中央図書館 編集・発行

長岡市学校町1-2-2 TEL.0258-32-0658

mail: lib@city.nagaoka.niigata.jp